



麗江市は雲南省の北西部にあり、省都である昆明市から北西約500キロメートルに位置しています。平成9年12月4日には、その独特な民族文化、町並み、歴史が認められ中国で初めてユネスコ世界文化遺産に登録されました。世界で唯一現在も使われている象形文字であるトンパ文字をはじめとするトンパ文化、ナシ族古典音楽、いくつかの宗教が融合した白沙壁画などが今なお残っています。漢族、チベット族および他の少数民族の文化が取り入れられ、独特の民族文化に富むとともに長い歴史を持ち、それらが今でも保存されています。古い町並みが整備・保存されている麗江旧市街地(麗江古城)や玉龍雪山のロープウェイには毎年多くの観光客が訪れています。

●これまでの取り組み

①外国青年国際交流員の受入れ

平成13年より中国雲南省から外国青年国際交流員の受入れ(計15人)を行っており、これまでに麗江市の職員も交流員として受け入れています。地方自治体における国際交流業務に携わることにより、地域レベルでの国際化を推進することを目的としています。国際交流員は市民向け中国語講座の講師、中国からの訪問客等の通訳、中国出身の市民の相談支援、国際交流事業などに従事しています。



②自治体職員協力交流研修員の受入れ

平成16年より、麗江市から観光、農業、畜産、教育、医療、文化財等の分野の自治体職員協力交流員を受入れています(計21人)。日本の地方団体のノウハウや技術等を習得し、国際化施策等に協力することを通じて、地域の国際化を推進することを目的として行っています。



③市民海外派遣事業

飛騨高山国際協会が主催する英語スピーチコンテストや高山市教育委員会主催の公募試験で選ばれた、高山市内の中高生を毎年海外に派遣しています。3つのコースのうち、中国コースは麗江市や昆明市などに派遣しており、毎年20人程の中高生が現地で学校訪問やホームビジット体験をしています。



●友好都市提携の経緯

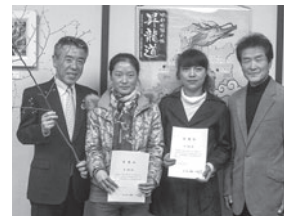
<平成14年3月21日 友好都市提携締結>

日本エアシステム(JAS、現在の日本航空)が平成11年から関西国際空港-中国雲南省・昆明空港間の直行便を就航するにあたり、世界遺産に登録された雲南省・麗江地区(現在は麗江市)との友好都市提携について提案がありました。古城街の景観や建築様式、気候、風土、文化などから高山市としても最適であると判断し、これをもとに友好都市提携を締結しました。



④農業研修生受入れ

平成21年から平成25年まで飛騨農業協同組合が麗江市からの農業研修生の受入れを行っていました。農業研修生が講習を受ける際、高山市の国際交流員が指導を行うなどの支援を行いました。



⑤周年事業

友好都市提携から節目となる年には友好都市関係を一層深めるため、公式訪問団の相互派遣や交流事業等を実施しています。提携5周年や10周年を記念して高山市からの訪問団が麗江市を訪れた際には、麗江市の少数民族であるナシ族が千年来継承してきた文字であるトンパ文字の伝承に役立ててもらうため100万円を寄付しました。トンパ文字は現代まで残った唯一の象形文字とされています。その他にも高山商工会議所より消防車両の寄贈を行い、麗江市の消防活動に役立てていただいています。



【これからの展望】 4年後の2022年には、高山市と麗江市は友好都市提携20周年の節目を迎えます。この機会を活用して、両市の友好親善をさらに強化し、真に意義のある民間交流を促進していきます。